



我孫子まち歩きマップ

JR成田線新木駅・布佐駅

発行：我孫子インフォメーションセンター（アビシルベ）2021現在

※この地図には…

- 坂東バス
 - あびバス（新木ルート）
 - 大利根交通（利根ニュータウン）
 - ふれあいバス（印西市）
- のバス停が記載されています。

～タクシーのご案内～

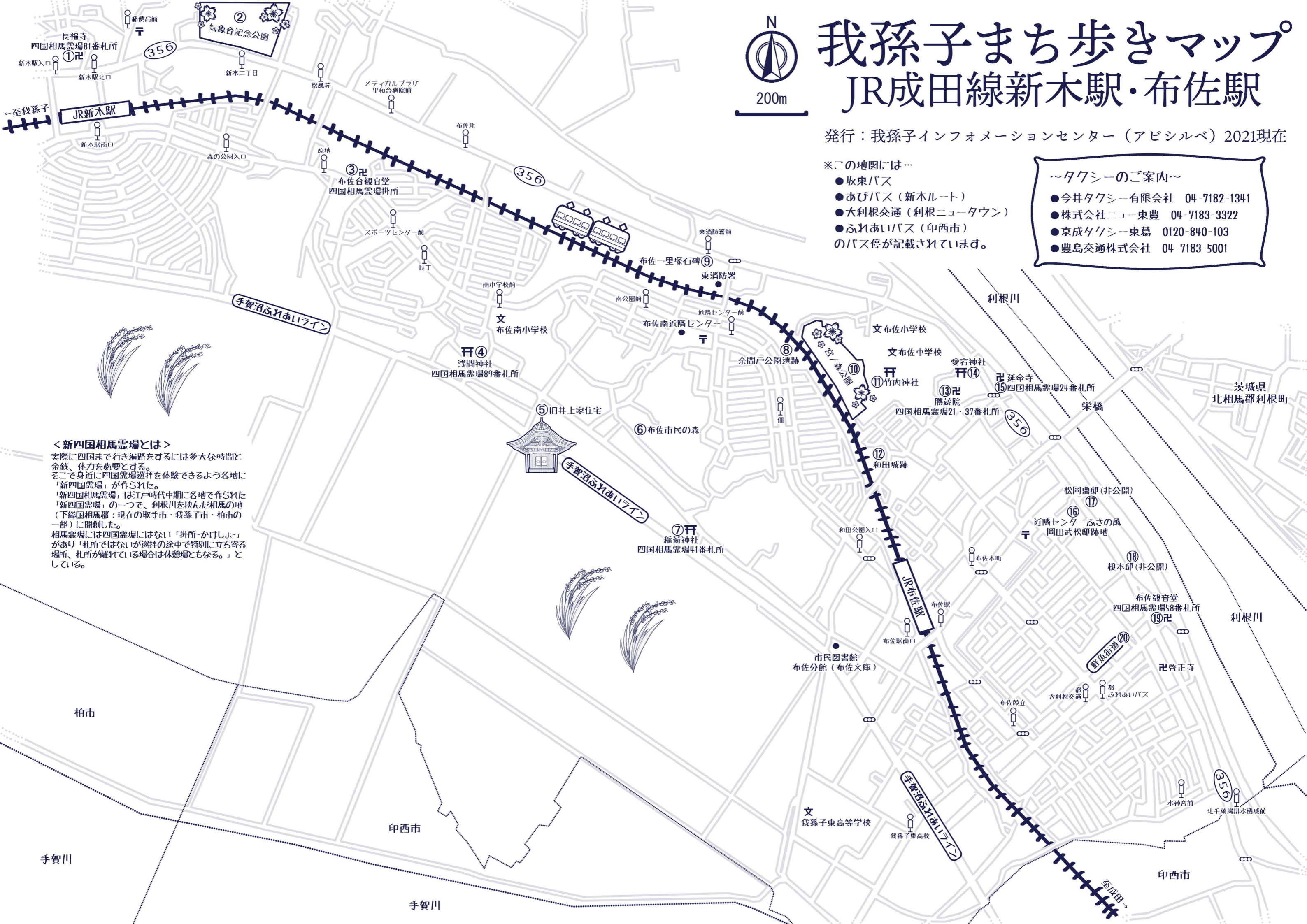
- 今井タクシー有限公司 04-7182-1341
- 株式会社ニュー東豊 04-7183-3322
- 京成タクシー東葛 0120-840-103
- 豊島交通株式会社 04-7183-5001

<新四国相馬霊場とは>

実際に四国まで行き遍路をするには多大な時間と金銭、体力を必要とする。そこで身近に四国霊場巡拝を体験できるよう各地に「新四国霊場」が作られた。

「新四国相馬霊場」は江戸時代中期に各地で作された「新四国霊場」の一つで、利根川を挟んだ相馬の地（下総国相馬郡：現在の取手市・我孫子市・柏市の一部）に開創した。

相馬霊場には四国霊場にはない「掛所-かけしよ」があり「札所ではないが巡拝の途中で特別に立ち寄る場所、札所が離れている場合は休憩場ともなる。」としている。



長福寺
四国相馬霊場81番札所
①札
新木駅北口
新木駅南口
郵便局前
②
気象台記念公園
新木二丁目
松風苑
メディカルプラザ
平和合病院前
布佐北
布佐一里塚石碑
⑨
東消防署
東消防署前
南公園前
南小学校前
文
布佐南小学校
④
浅間神社
四国相馬霊場89番札所
⑤
旧井上家住宅
⑥
布佐市民の森
⑦
稲荷神社
四国相馬霊場41番札所
⑧
余間戸公園遺跡
近隣センター前
布佐南近隣センター
⑩
森公園
⑪
竹内神社
文
布佐中学校
⑫
和田城跡
⑬
勝蔵院
四国相馬霊場21・37番札所
⑭
夢宿神社
⑮
延命寺
四国相馬霊場24番札所
⑯
布佐観音堂
四国相馬霊場58番札所
⑰
松岡曲邸（非公開）
⑱
榎本邸（非公開）
⑲
啓正寺
⑳
鮮魚市場

柏市

手賀川

印西市

手賀川

市民図書館
布佐分館（布佐文庫）

文
我孫子東高等学校

印西市

茨城県
北相馬郡利根町

利根川

北千葉揚排水機場前

水神宮前

手賀川

至成田

①**長福寺** 真言宗。本尊は千手観音。玉桜山と号する。当所発見の板碑に長享2年（1488年）「権律師覚永」と刻んだものがあることから、古く堂庵があったと考えられる。寛文11年（1671年）建造の五輪塔に「長福寺長巖」の名があり、その墓塔が元禄7年（1694年）に建てられていることから江戸時代初期には創建していたと考えられる。大師堂の側背3面に十六羅漢の銅彫刻がある。新四国相馬霊場81番札所。下総三十三ヶ所観音霊場22番札所。

②**气象台記念公園** 広大な芝地が広がっており、のびのびと過ごすことができる。春には桜が美しく咲く。この地には昭和13年（1938年）から平成11年（1999年）までの約60年間、中央气象台布佐出張所（気象送信所）が設置されていた。これは、当時の布佐町出身で中央气象台長であった岡田武松（16の説明参照）が交渉し、布佐町が土地を寄付したことで実現した。公園には現在も気象庁のアメダスが設置され、我孫子市周辺市町村の降水量、風向・風速、気温、日照時間の観測を行っている。

③**布佐台観音堂** 稚児大師堂・馬頭観音堂・2つに仕切られ左が大師堂、右が石神堂になっており、計3棟のお堂が並んでいる。廃寺となっているが、いまだに「台観寺」という通称で呼ばれることがある。新四国相馬霊場掛所。

④**浅間神社** 御祭神は木花開耶命-このはなさくやひめのみこと-。鳥居の足元には関東大震災で落下した「仙元宮」の鳥居額が置かれている。浅間神社を参拝の後、竹内神社（11）で参拝したことを伝えると御朱印を頂くことができる。新四国相馬霊場89番札所。

⑤**旧井上家住宅**(市指定文化財) 井上家は江戸時代中期に行われた享保の改革の一環として実施された手賀沼の干拓事業に取り組むため、江戸から布佐へと移住し、この地の名主となった。旧井上家の敷地には幕末から昭和初期に建てられた9棟の歴史的建造物が現存し、いずれも風格と格式を具えた良質の建築であり、きわめてよい状態で保存されてきた。手賀沼開墾に尽くした豪農と屋敷景観を今日にとどめる貴重な文化遺産となっている。平成11年(1999年)に我孫子市景観賞を受賞、平成24年（2012年）我孫子市指定文化財に指定。9:00～16:00※入館は15:30まで 入場無料 休館日：月曜日（祝日の場合は次の平日）・年末年始 Tel.04-7185-1538（文化・スポーツ課直通 平日のみ）

⑥**布佐市民の森** 広さ2.7ヘクタール、散策路700mの森。調整池周辺には種類豊富な野鳥が生息し、冬には渡り鳥もやってくる。自然を身近に感じることができるスポット。

⑦**稲荷神社** 御祭神は宇迦之御魂神-うかのみたまのかみ-。手賀沼の広大な新田の産土神として勧請されたと思われる。手入れの行き届いた様は、信仰の篤さをうかがわせる。新四国相馬霊場41番札所。

⑧**余間戸公園遺跡** 昭和54～55年（1979年～1980年）に布佐平和台造成に先立って発掘調査が行われた。縄文時代草創期・早期と古墳～平安時代の複合遺跡。縄文時代の遺構は炉穴と土坑が見つかっている。

⑨**布佐一里塚石碑** 布佐消防署の北側成田街道沿いに一里塚があったが、昭和30年代（1955年）の国道工事で撤去され、現在は東消防署北側の国道脇に石碑だけが残っている。

⑩**宮ノ森公園** 広い芝生と遊具があり、大人から子供まで楽しめる谷地を生かした公園。桜はもちろん、3千本以上のつつじや、秋は斜面の紅葉が見事。四季折々豊かな自然を満喫できる。この他、コナラ、クヌギなど様々な木立がある。

⑪**竹内神社** 平将門の乱が平定された天慶3年（940年）に武内大明神を祀った布佐の鎮。現在、御祭神は火の神、天之迦具土命-あまのかぐつちのみこと-。合祭主は日本武命-やまとたけるのみこと-と、武内宿弥命-たけうちのくすね-。河岸として栄えた土地柄、山車は活気に満ち踊る神楽は艶やか。境内に旅順陥落英文碑がある。これは明治38年（1905年）旅順陥落を記念した碑で、松岡鼎が弟の柳田國男に呼びかけて建てた。（⑰の説明参照）鳥居の前に位置する子連れ唐獅子は近隣には珍しく、子孫繁栄の御神徳があるという。毎年9月中旬の土日を挟む3日間に例大祭が行われる。この例大祭は市指定文化財となっている。

⑫**和田城跡**（布佐城跡ともいう） 城跡は成田線建設で殆どが削り取られて失われている。現在、跡地には和田幼稚園がある。

⑬**勝蔵院** 天台宗西光山。寺伝では文禄元年（1592年）に創建とある。山門には仁王の彫刻がある真っ白な新しい石の山門、山道の左側には聖観音石像がある。かつては境内丘の鐘撞堂から畑越しに、村里の風景が眺められ、朝夕には鐘が鳴り響いたと言われる。新四国相馬霊場21・37番札所。

⑭**愛宕神社** 竹内神社の元宮。奈良時代大宝3年（703年）創建と伝えられる古い社。御祭神は火の神、天之迦具土命-あまのかぐつちのみこと-。東方にあった牛頭天王社-ござてんのうしゃ-（八坂神社）を合祀したといわれている。

⑮**延命寺** 真言宗。山号は求宝山。寺伝によれば文禄2年（1593年）大和の法隆寺から行基作の虚空蔵菩薩を迎えて安置したという。御開帳は住職一世に1度だけ慶事の時にのみ許されており、現住職（14世足立俊領師）は平成14年（2002年）4月に虚空蔵菩薩大改修の事業を成し遂げた時にご開帳を許された。新四国相馬霊場24番札所。

⑯**近隣センターふさの風・岡田武松邸跡地** 近隣センターふさの風は、地元では「博士の家」と呼ばれた岡田武松邸跡地に建てられた。岡田武松は気象用語「台風」の命名や世界に先駆けた海上船舶の無線通信、地震観測網の整備など気象事業の発展に多大な業績を残した。中央气象台予報課長時代、日露戦の日本海海戦時に「本日天気晴朗ナレドモ波高シ」と後世に残る予報したことでも有名。後に中央气象台長と東大教授を兼任し、昭和24年（1949年）文化勲章を受章した。近隣センターのロビーにはその業績と年譜が記されている。9:00～19:00※但し、夜間に有料室の利用がないときは17:00に閉館 入場無料 休館日：毎月第2・4水曜日・年末年始

⑰**松岡鼎邸** 旧凌雲堂医院（非公開） 松岡鼎は医師、布佐町長、千葉県医師会長を務めた。布佐文庫を設立、のちに蔵書約5千冊が勝蔵院に移され、現在は我孫子市図書館布佐分館に保管されている。なお、民俗学者の柳田國男は松岡鼎の実弟で、青年期、兄の松岡の家にたびたび寄留していた。（柳田國男は東京帝国大卒後、信州飯田藩出身柳田直平の養嗣子となり柳田を名乗った。少年期を過ごした利根町に柳田國男記念公苑がある。）兄の家に寄留する柳田國男を訪ねて、島崎藤村や田山花袋、国木田独歩などが布佐を訪れた。

⑱**榎本邸**（非公開・市景観特別賞受賞） 榎本邸は布佐の街が“河岸”として栄えた頃のたたずまいを今に残していることから布佐の歴史や文化を示す貴重な建物である。榎本家は江戸時代、布佐河岸が最盛期頃、鮮魚輸送問屋をしていた豪商。後代には町長、衆議院議員を輩出した。

⑲**布佐観音堂** “鮮魚街道”（⑳）の出発地に建てられた観音堂で、この観音堂から“鮮魚街道”を望むと眺めが良い。馬頭観音は17世紀末の元禄年間に、魚問屋と馬主が馬の慰霊のために建てたもの。敷地内に「魚河岸」と刻まれた御手洗石がある。新四国相馬霊場58番札所。

⑳**魚街道**-なまかいどう- 江戸時代中期、銚子を夕刻に出て布佐河岸に翌朝荷揚げされた“鮮魚”は、一刻も早く日本橋市場に出すため松戸河岸に馬で陸送された。その道筋を「鮮魚街道」と呼ぶが、正しくは「松戸みち」という。

MEMO

